

入選

手をさしのべられる大人になりたい

大分県 豊洋小学校

4年 大村文太

夏休みにあったできごとです。ぼくが家族で大分市に出かけているとき、おばあちゃんから「杵築駅の近くの信号で車が故しようして、道路の真ん中で動かなくなったので助けに来てほしい。」と電話がかかってきました。ぼくたちは、すぐに引き返しておばあちゃんの元に向かいました。

ぼくたちがとう着すると、おばあちゃんの車は道路のはしっこにありました。話を聞くと、通りすぎた車の中で、おばあちゃんのことを気になって戻って来てくれた3人組の男の人たちがいて、その人たちが車をはしっこに動かしてくれたということでした。

それから、パパの友だちでおばあちゃんが車のことをまかせている、日出の車屋さんひじに連れくしたら、「今、おはかまいりきつきで杵築きつきに来ているからすぐに行く。」と言ってくれました。車屋さんがとう着して、故しようの原因を調べてくれました。

「バッテリーが上がっているので、ちがう車を用意してバッテリーケーブルをつないで、エンジンをかけるしかない。」と教えてくれました。その人は、たまたま杵築きつきに来ていてそのままかけつけてくれたので、バッテリーケーブルを持っていませんでした。

それから、パパがぼくの友だちのお父さんに電話をしたら、その日は仕事でいそがしいのに、バッテリーケーブルを持って、ころよくかけつけてくれました。そして、バッテリーケーブルをつないで、おばあちゃんの車のエンジンが無事にかかりました。

友だちのお父さんが、なれた手つきで車のエンジンをかける様子を見て、かっこいいと思いました。その後も、また車が止まったらいけないので、友だちのお父さんがしゅう理工場に着くぎりぎりまで後ろをついて来てくれました。

ぼくは、今回のできごとを見ていて、自分が同じ場面に出会ったときに、助けてあげることができようかと考えました。たまたま通りすぎた3人組の人たちにしても、一度通りすぎた後に心配になってわざわざ戻って来てくれて、おばあちゃんを助けてくれたことがすごいと思いました。

おばあちゃんの車が道路の真ん中に止まっているので、通りすぎる車の中にはクラクションを鳴らしていく人もいたそうです。でも、3人組の人たちのように、おばあちゃんの車をはしっこまで動かしてくれる親切な人もいました。その人たちは、車を移動させたら、名前も言わずに立ち去ったそうです。クラクションを鳴らされて、心細い思いをしていたおばあちゃんにとって、3人組の人たちは神様のように思えたかもしれません。

すぐにかけてくれたパパの友だちの車屋さんや、ぼくの友だちのお父さん、通りすがりの戻って来てくれた3人組の人たちのように、ぼくも困っている人がいたら手をさしのべてあげられる、親切な大人になりたいと強く思いました。